

1

1 寒い
2 急ぐ
3 薬局

4 本州
5 春分
6 大昔

2

1 I 筋肉
II 向かい合って

2 ② エ
③ ア
④ イ
3 感覚器官

4 ア
5 大きな力を出す

6 I 感覚
II 運動
7 I 1
II 2

3

1 (1 完答)
なおわい
2 A おねしよ

2 B おしやべり
C やさしく

3 ② エ
③ ウ
4 九
5 イ

6 I エ
II あまり
7 ため息

配点
 ① 各2点×6=12点
 ②・③ 各4点×22=88点
 <計> 100点

- 1 うかんむりの下の部分を「其」と書いている間違が多い。横棒の数と長さに気をつけよう。
- 2 一、二画目を「マ」と書かないように、また、四画目が右に突き出さないように気をつけよう。
- 3 「葉」の九画と十画、十一画と十二画目をそれぞれ続けて書かないように気をつけよう。
- 4 日本列島の中心となる、もっとも大きな島を「本州」と呼ぶ。「州」は「川」の部分のトメ・ハライに気をつけよう。
- 5 「春分」は三月二十一日ごろで、太陽が真東から出て真西に沈む。「春」は五画目の書きはじめの位置に気をつけよう。
- 6 4や5はことばを知らなければ書けなかったかもしれないが、「大昔」は訓読みでもあり、ことばの意味から字をイメージしやすいだろう。漢字を学習するときは、熟語の意味や使い方も合わせて覚えるようにしてほしい。

2

- 1 閉節については——線①を含む文の次の文から、筋肉のしくみと共にくわしく説明されている。内容をイメージしながらねいに読み進めれば、本文二行目に「閉節には向かい合って二つの筋肉がついており……」とあるのが見つけられるだろう。
- 2 (②) は、前に筋肉の働きによって閉節が自由に曲げのばしできるということが書かれていて、後には「うで」を例として取り上げているので「例えば」があてはまる。(③) は、前後でうでが曲がる、のびるという反対の動きが書かれているので「逆に」があてはまる。(④) は、この前までの内容を後でまとめられているので「このように」があてはまる。
- 3 目は「視覚」、耳は「聴覚」、「皮ふ」は「触覚(触った感じ)」というそれぞれの感覚を感じ取る器官である。——線を含む一文をていねいに読んでいけば易しい問題だっただろう。
- 4 本文から、速筋と遅筋の違いを読み取ろう。本文終わりから三、二行前に遅筋は「大きな力を出すことができません」、「長い時間動き続けることができます」とある。走り幅跳びや槍投げは知らなくても、ことばの意味からイメージしてほしい。
- 5 本文終わりから三行前に「速筋とは反対に大きな力を出すことはできません」とあるということは、「速筋は大きな力が出せる」ということになる。
- 6 ——線⑤からはじまる段落に書かれていることをていねいに整理してあてはめていけばよい。図の中央にある「中すう神経」から前後をたどってゆくと探しやすいだろう。
- 7 I ひじや筋肉、うでについて書かれていたのは本文第一・第二段落なので、まずはそのあたりにヒントがあると考えてていねいに読み直そう。本文四行目に「うででは……外側の筋肉が縮むことでのびます」と書かれていることからわかる。
- II 速筋と遅筋について書かれていた本文最終段落の内容をていねいに読み返そう。色に注目して読めば易しいだろう。

3

- 1 ——線部分について、「なぜ？」と疑問を持ちながら本文を読んでほしい。後のママとの会話からはママがAのことをしゃべってしまったために舞が怒っているのだということがわかる。また、本文後半の二文目で「なおみちゃんに、Aのこと、しゃべらないでつてたのもう」とあるので、ママがしゃべった相手がおみちゃんであり、舞はそれを秘密にしてほしいのだからということがわかる。その後の舞の態度からも、学校に行つて「なおみちゃんと会うのがこわい」のだと考えられる。
- 2 A 問1でも考えた通り、Aの内容は舞にとつてだれにも知られたくないようなことだと考えられるが、本文の終わりから三行前を読まなければわからないようになっていいる。これも本文を読んでいるときに疑問を持ち、気づいておきたい。
- B 「なかよしグループで集まって」何をするのか？ と考えればよい。Bを含む段落は「ぜんぜんしゃべらないわけじゃない。……ただ、……」という形なので、Bには「おしゃべり」ということばがはいるだろうとイメージできる。
- C Cを含む文の後の一文に「またおなじことを考えつづけた」とあるので、前に同じことを考えている部分がないかと探すと、★の二行前が見つかる。ここに対応していると考えれば、直後の一文と重複する「なかよし」は当てはまらない。
- 3 それぞれ、その場面の状況や舞の心情をイメージしながらあてはめていこう。(②) は、ママに腹を立てていることから「むかむか」があてはまる。「わくわく」を選んでしまったなら、ここまでの文と文のつながりを考えずに選んでしまっている。(③) は、なおみちゃんに昨日の話の秘密にしておいてほしいと言いたいと言えない、声が出ない、ということから舞の緊張を読み取りたい。
- 4 同じ行の「外はあたたかだった」という表現からも一月と十二月はあてはまらないであろうと見当はつくが、問題の文にある「★より後をよく読んで」という指示をヒントにしてほしい。季節が感じられるものがなかったか、と考えて探せば「さつまいも」や「やきいも」に目がとまるだろう。やきいもは十二月でも食べられるが、さつまいもの観察をするのは秋までだろう。
- 5 なおみちゃんが本当に「いじわるな顔」をしているのではなく舞自身がここでなおみちゃんに対して抱いている不安から、このような顔に「思えた」のである。その不安の原因をつかんでいたか。
- 6 I 直前の一文に「なおみちゃんがだれかと話をすると、心ぞうが苦しくなった」とある。なおみちゃんが舞の秘密を話してしまうのではないか、と不安なのである。
- II 「心ぞうが苦しくなった」のが「二回だけ」ということは、なおみちゃんは「あまり話をしない」ということである。ただし、全く話さないというわけでもなかったのだから「おしゃべりしない」は◎の文にはあてはまらない。
- 7 ここまでの舞の様子から、沈んだ気持ちになっていることはつかめているだろう。そのようなときにつくのは、どんな息か。

以上